

投 稿 規 程

2016年3月1日 改定

1. 投稿資格

原則として筆頭者は千葉大学大学院看護学研究科（以下、本研究科とする）の教員とする。ただし元教員で、本研究科教員との共同研究であり、研究内容が本研究科に在職中から引き続くものに関してはこの限りではない。また、本研究科に在学中の大学院生および本研究科を修了後1年以内の者については、上記の元教員と同じ扱いとする。

なお、共著者に関しては特に制限はない。

2. 著作権

著作権は本研究科に帰属する。図書・紀要委員会から提示する著作権譲渡同意書に著者全員が自筆署名し、論文とともに提出する。

論文に他者の図表を転載または改変して掲載する場合には、著作権の所有者より転載・改変掲載の許可を受け、図書・紀要委員会から求められた場合はそのコピーを提出する。

3. 投稿論文の内容

看護学の向上と発展に寄与するものであり、未発表のものに限る。なお、他誌へ投稿中の論文は未発表のものとはみなさない。

4. 論文の種類

a. 総説

看護学の特定のテーマについて、多面的に収集した国内外の知見に基づいて総合的に学問的状况を概説し、考察したもの

b. 原著

独創的で、新しい知見が論理的に示されており、看護学の知識として意義の高いもの

c. 研究報告

データに基づいて新しい知見が論理的に示されており、報告の意義が高いもの

d. 実践報告

看護あるいは教育に関する意義ある活動についての報告

e. 資料

報告の意義が認められるもの

f. その他

図書・紀要委員会が認めたもの

5. 投稿手続き

1) 投稿原稿は3部（正本1部、副本2部）とする。

2) 正本は、以下の順序で作成する。

1 枚目：論文名、著者名、所属、英文の論文名、英文の著者名、英文の所属、希望する論文の種類

2 枚目：和文要旨（600字程度）、キーワード（5個以内）

3 枚目：英文要旨（総説、原著、研究報告、実践報告には必ず、250語程度でつける）、キーワード（5個以内）

4 枚目以降：本文、文献、図、写真、表など

3) 研究論文の構成は、原則として、緒言（はじめに）、方法、結果、考察、結論、謝辞、引用文献、図表とする。ただし、結論、謝辞、図表は省略可。

4) 副本については、上記1枚目の著者名と所属を削除する。2枚目および3枚目は上記に準ずる。4枚目以降の本文に謝辞等投稿者を特定できる事項が記載されている場合はこれを削除する。

5) 原稿は封筒に入れ、封筒の表に次の事項を記すこと。

- ・筆頭者名
- ・論文題名と原稿の種類
- ・原稿枚数（要旨、図表を含む）
- ・図表枚数

6) 原稿は看護学部総務係紀要担当者に提出する。

6. 論文執筆要領

1) 論文は、和文または英文とし、ワードで作成する。英文は英語を母国語とする人によるチェックを受ける。

2) 投稿論文の1編は、本文および図表をあわせて下記の枚数または文字数以内とする。

<和文> 総説・原著・研究報告：10枚以内、実践報告・資料：7枚以内、その他：5枚以内。

<英文> 総説・書評・（その他）Editorial articles・Book reviews, etc.：400 words、原著・研究報告Original articles・Research papers：2000-3000 words、実践

- 報告Clinical reports : 1000–2000 words
- 3) 和文論文は、A 4判用紙1頁に1行40文字、30行(1,200字)で印字する。句読点は「,」「.」を用いる。英文はダブルスペースとする。
 - 4) 句読点(,)、カッコ(「, (, [など)は1字分とする。外国語は、活字体を使用し、1字分に2文字を収める。
 - 5) 章節の順序は、原則として、I, II, …; 1, 2, …; 1), 2), …; ①, ②, …とする。文中および図表中の数字は、アラビア数字かローマ数字(1, 2, 3, …I, II, III…)を用いる。
 - 6) 図表はそのまま製版するので、下記に従い作成する。
 - a. 写真は鮮明なものに限る。
 - b. 図表・写真の裏面に、論文名と著者名を鉛筆書きする。
 - c. 図表の表題、内容、説明は和文あるいは英文とする。
 - d. 図表は必ず原図とする(コピーは不可)。
 - 7) 文献の記載方法は下記に従う。
 - a. 引用文献は、本文中の引用順に1) 2) 式に番号をつけてリストする。
 - b. 和文雑誌は、「著者名(4名以上は『ほか』とする): 論文題名. 雑誌名, 巻(号), 頁-頁, 西暦年.」の形式で記載する。

例 森 恵美, 坂上明子, 前原邦江ほか: 高度生殖医療後の妊婦の母親役割獲得過程を促す看護介入プログラムの開発. 日本母性看護学会, 11(1), 19-26, 2011.

 - c. 英文雑誌は、「著者名(4名以上はet al.とする): 論文題名. 雑誌名, 巻, 頁-頁(通頁), 西暦年.」の形式で記載する。

例 Aiken LH, Cimiotti JP, Sloane DM, et al.: Effects of nurse staffing and nurse education on patient deaths in hospitals with different nurse work environments. *Medical Care*, 49, 1407-1053, 2011.

 - d. 電子ジャーナルは以下の形式で記載する。なお、著者名は3名以内とし、4名以上は「ほか」(和文の場合)あるいはet al. (英文の場合)とする。

例 1) Devi S: Bahrain reduces sentences for protest doctors and nurses. *Lancet*. 2012 Jun 23; 379(9834): 2327.

 - 2) Aiken LH, Sermeus W, Van den Heede K, et al.: Patient safety, satisfaction, and quality of hospital care: cross sectional surveys of nurses and patients in 12 countries in Europe and the United States. *BMJ*. 2012 Mar 20; 344:e1717. doi: 10.1136/bmj.e1717.
 - e. 単行本は次の形式で記載する。
 - i) 単著の場合は「著者名: 書名. 版, 出版社, 頁-頁, 西暦年.」とする。
 - ii) 分担執筆の場合は「著者名: 表題. 編集者(編) 書名. 版, 出版社, 頁-頁, 西暦年.」とする。
 - iii) 訳本の場合は「原著者(訳者): 和文書名, 版, 出版社, 頁-頁, 西暦年.」とする。

例 1) 中井久夫: 中井久夫著作集5巻 病者と社会. 第1版, 岩崎学術出版社, 3-27, 1991.

 - 2) 伊藤公雄: 父親のゆくえ. 井上真理子, 大村英昭(編), ファミリズムの再発見. 第2版, 世界思想社, 171-202, 1998.
 - 3) Pender NJ (小西恵美子 監訳): ペンダーヘルスプロモーション看護論. 日本看護協会出版会, 232-233, 1997.

なお、電子出版については、上記の各形式に則って記載し、西暦年の後に「入手先」とそのURLを記載すること。

 - f. ウェブサイト関連の文献については、次の形式で記載する。
 - i) 政府等の公的なウェブサイトに掲載されている刊行物を引用する場合は、文献として取り扱い、以下の形式で文献リストに記載する。

例 厚生労働省: 平成23年版 厚生労働白書 社会保障の検証と展望～国民皆保険・皆年金制度実現から半世紀～, 第1部 社会保障の検証と展望 ～国民皆保険・皆年金制度実現から半世紀～, 5-31, <http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/11/dl/01-01.pdf> (2012年7月20日アクセス)

 - ii) 政府等の公的なウェブサイト以外のサイト、ブログ、メールマガジン等につい

ては、引用の必要性を十分に検討した上で、本文中に（ ）を付して、URLと最終アクセス年月日を記載する。

例 ○○患者会からの報告によると
(URL, 2012年7月20日アクセス),
...

- 8) 単位は、m, cm, mm, g, mg, L, mLなどとする。なお、単位名省略のうしろには点をつけない。
- 9) 研究や実践上の倫理的配慮について記載する。

7. 倫理的配慮

人および動物が対象である研究等は、千葉大学大学院看護学研究科倫理審査委員会等の承認を得たうえで、倫理的に配慮されて実施され、その旨が本文中に明記されていること。

倫理審査委員会の審査が不要とされた研究や実践についても、研究や実践上の倫理的配慮について記載すること。また、論文の種類に関わらず、公開について関係者（研究対象者および関連の施設等）から文書による許諾を事前に得ておき、図書・紀要委員会から求められた場合はそのコピーを提出する。

8. 利益相反

利益相反（COI）関係については、本文の末尾すなわち謝辞または文献の前に記載する。

COI状態がない場合は、「申告すべきCOI状態はない。」などの文言を記載する。

9. 校正

初稿は著者校正とし、大幅な加筆修正は認めない。

10. その他

- 1) 投稿論文の採否および種類の決定は、査読を経て図書・紀要委員会が行う。査読者は図書・紀要委員会が依頼する。
- 2) 採択された最終原稿には電子ファイルを添付すること。その際、ファイルはメール添付あるいはUSBメモリにより、Word等編集可能なデータに、氏名を付して提出する。なお、ファイルにはパスワードを付すこと。

■訂正

紀要37号（平成27年3月発行）の目次に誤りがありました。下記のように訂正させていただきます。

誤：ワシントン大学クリスマン教授特別講義看護管理者によるCBPRアプローチ
～病院と地域の連携による看護のアウトリーチ

正：ワシントン大学クリスマン教授特別講義 病院と地域の連携による看護のアウトリーチ
～看護管理者によるCommunity-Based Participatory Reserachアプローチ～

編集後記

紀要第38号を無事に発行することができました。本号には、原著3編、研究報告3編、実践報告4編の合わせて10編の論文のほかに、平成27年度千葉大学看護学部公開講座「看護とエビデンス」の報告を掲載することができました。

投稿規程の改訂により、本号からは大学院看護学研究科に在学中の大学院生および本研究科を修了後1年以内の者については元教員に準ずる扱いとなり、投稿資格として認められるようになりました。掲載されました10編の論文のうち2編の筆頭著者は大学院博士後期課程に在学する大学院生です。また、看護学研究科の教員が国内や海外のさまざまな方々と協働して行った研究も数多く掲載されています。社会貢献という大学の使命を考えますと、看護学研究科の教員が多方面で研究活動を展開されていることを大変喜ばしく思います。さらに、本号では英語論文が掲載されていますが、今後の英語論文での投稿や事務処理の簡素化を図るために投稿規程の一部改訂を行いました。

紀要は看護学研究科の研究成果を公表する媒体の一つです。教員、特に若手教員や研究者、大学院生が研究成果の発表ツールとして積極的に投稿されることを期待しています。

下記の方々には、ご多忙のところ各論文の意義をとらえ、建設的に査読していただきました。厚くお礼申し上げます。

また、発行までの事務を円滑に調整していただいた若村拓史さんをはじめ、事務部の方々にもお礼申し上げます。

(田中 裕二)

紀要第38号の査読は、以下の方々と図書・紀要委員が行いました。

池崎澄江、石橋みゆき、石丸美奈、岡田 忍、黒田久美子、小宮山政敏、
諏訪さゆり、錢 淑君、野崎章子、正木治恵(五十音順)

図書・紀要委員

舟島なをみ、佐藤奈保、今村恵美子、小川俊子、時田礼子、田中裕二

千葉大学大学院看護学研究科紀要 第38号

平成28年3月発行

編集兼
発行人

千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号
千葉大学大学院看護学研究科
電話 043-222-7171 (代)

印刷所

三陽メディア株式会社
電話 043-266-8437

- ・ 千葉大学看護学部紀要

第1号（昭和54年3月発行）～第32号（平成22年3月発行）

- ・ 千葉大学大学院看護学研究科紀要

第33号（平成23年3月発行）～第38号（平成28年3月発行）

